

飯南

いinan

議会報

- 02 年頭のあいさつ
一般会計補正予算
- 03 12月定例会報告
可決された主な議案 陳情
- 04 一般質問
- 08 討論
決算審査報告
- 09 行政視察報告
- 10 常任委員会報告
議会活動報告 採決の結果
- 12 明日を拓く

第52号
平成30年1月19日



年頭のごあいさつ

飯南町議会議長 小野 覚



明けましておめでとうございます。町民の皆様には、お健やかに新年を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。また、日頃は町議会に對し、ご理解とご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。本年も変わらぬご支援とご指導をお願いいたします。

昨年7月に議会が改選され、新しい構成でスタートして半年が経過しました。本年度からの米政策の見直し、人口減少対策を中心とした地方創生ほか山積する町政課題に、真摯に、そして果敢に取り組みなければなりません。

町民の代表機関として皆様の負託に怠るために、議会の権能強化と資質向上に向けて、強い意志をもって議会改革に取り組みます。その一歩として、飯南町議会の最高規範となる「議会基本条例」の策定に向けて努力してまいります。

本年が皆様にとりまして、希望に満ちた明るく実り多い年になりますことを心から祈念申し上げます。

平成29年

12月定例会終わる

12月5日から15日までの11日間の日程で開きました。

赤穴八幡宮門前にある上赤名住宅3棟が完成し、条例に追加された。これで定住促進賃貸住宅は21棟となった。

この住宅は40歳までの夫婦、あるいは中学生以下の子どもを扶養しているという条件はあるが、25年間住み続ければ譲渡される。大変人気があり、毎年応募が募集を上回り、抽選が行なわれている。

顕著な定住効果が認められているので、各地域へ事業導入を求めた。また、道路改良及び施設の設置について、適切な業務管理が行なわれているか調査した。地方自治法、飯南町条例及び規則に照らし精査したところ、法令にそぐわない箇所が発見された。今後、このようなことが無いよう、緊張感をもって、法令を遵守するよう求めた。

可決された主な議案

■認定

平成28年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

■条例関係

飯南町定住促進賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の改正など5件

■補正予算

平成29年度飯南町一般会計補正予算(第6号)など9件

■諸議案

H29(交付金)町道松本頓原線道路改良工事(国道取付・情報ボックス移転工事)請負変更契約の締結

陳情

中井谷ため池の改修及び早期着手の要望

〔陳情者〕

飯南町花栗72番地2

とんぼら門営農組合 代表理事

難波明石

中井谷ため池受益者 代表

熊谷利夫

〔付託委員会〕教育経済常任委員会

〔審査結果〕

採 択

七面大ため池改修の要望

〔陳情者〕

上來島自治振興協議会

会長 難波伸一郎

安江自治会

会長 星野康

〔付託委員会〕教育経済常任委員会

〔審査結果〕

継続審査

〔平成29年度 一般会計補正予算〕

社会資本整備総合交付金確定・三江線代替バス購入費など 3940万円減額

各会計		予算額	予算総額
一般会計		△3940万円	73億5907万円
特別会計	国民健康保険事業	8万円	7億1287万円
	簡易水道事業	244万円	5億5069万円
	下水道事業	5万円	4億 571万円
	介護保険サービス事業	20万円	3420万円
	病院事業	175万円	13億4415万円

一般質問

12月定例会



内藤 眞一 議員

Q 好適環境水で特産品を

教育経済常任委員会、岡山理科大学の好適環境水の研究施設を視察した。

淡水魚と海水魚を一つの水槽で飼育することができ、実際にウナギ、エビなどを陸上の施設で養殖試験中だった。大学は実証試験を受け入れる候補地を求めており、委員会では本町で受け入れが可能か検討した。

施設整備に多大な費用をかけるに活用できないか考察し、旧小田小学校のプールや遊休農地の利用、未利用ハウス空き家に水槽を置くなどで可能との結論を得た。

また、岡山理科大学と飯南高校との連携にも期待出来ると思うが、実証試験誘致の考えはないか。あわせて、旧小田小学校のプール活用をどう考えるか。

A 大学を視察し検討する

町長 山崎 英樹

実証試験の誘致については、岡山理科大学を視察し考えた。

事業には、支援は行うが町内のみならず取り組みを考えていただきたい。

大学等との連携は、保小中高一貫教育の第2ステージとして取り組みを進めたい。

旧小田小学校プールの活用は、地域の活性化につながる利用計画と、地元との調整が整えば活用していただきたい。



防火用水の役目もある旧小田小学校プール

Q 飯南米としめ縄のコラボで

本町の基幹産業はコメ作りであるが、いかに上手に販売するかがカギである。全国ではいろいろな名前を付けたコメが、イメージを伴った方法で販売されている。

わが町でも「日本一大しめ縄の町飯南町」として、コメ袋へのしめ縄シールの貼り付け、またしめ縄が印刷されたコメ袋の使用など、「飯南しめ縄米」として付加価値をつけて販売してはどうか。

A コラボによる効果に期待

町長 山崎 英樹

しめ縄と飯南米をコラボレーション(連携)させた売込みをという話は、最近よく聞く。

町としても、「大しめ縄」「飯南米」などを応援するため「神・人・自然が育んだ飯南町の日本一」をキーワードに「ふるさと名物応援宣言」をしたところだ。

秩父宮ラグビー競技場(東京)で「飯南町PRイベント」を開催し、最優秀選手に飯南米を副賞として進呈することになっている。

こうした取り組みの成果を見ながら、関係者と研究していきたい。



依頼された大しめ縄を心を込めて制作します

一般質問

12月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 待遇改善で保育士確保を

全国で保育士確保が困難になっている。保育士は潜在的にはかなりの数の有資格者がいるが、実際に仕事に就く人が少ないことから、現在の状況が生まれている。

厚労省は緊急対策を打ち出したが、効果は今ひとつである。根本的に、身分保障や待遇改善が必要な問題と考える。

保育士を対象にしたアンケートをみても、「効果がない」「保育の仕事に戻りたくない」などの回答があった。障害になつていないのは、「給料が安い」「労働条件が劣悪」などである。

本町では、保育士確保のために、給与が二重構造になっていることなど、政策の抜本的な見直しが必要と思うがどうか。

A 町独自で努力

町長 山崎 英樹

「人材確保支援センター」を設け、人材の確保に努めている。基本は、本町出身の保育士を育てることだ。飯南町独自で、できる限りの努力をする。

保育士の賃金格差があるということは、前提でやってきている。課題があるなら(財政のこともある)、保育所の統合も含めて議論が必要だ。

Q 小中学校の給食を無償化に

子どもの貧困が問題になっている。それが世代を超えて連鎖しないようにすることが重要な課題と考えられている。

子どもの貧困を放置すると、学校でもうまくいかないケースが多く、大人になってからの生活も不安定で、貧困が世代をまたいで引き継がれるという問題がある。

本町においても、貧困の連鎖から子どもを守るという、町としての責任も問われている。問題克服の一助として、給食費の無償化を再度提案する。

無償化は、全国で数多くの自治体で取り組まれており、少子化対策としても注目を集めていると聞き及ぶ。定住対策の一環としても有効ではないか。無償化導入に対する考えを教育長・町長に尋ねる。

A 今後の課題として

教育長 矢野 斉

保護者の経済的な理由や貧困の連鎖によって、子どもの教育に支障が出ることは、あつて

A 国の動向見ながら対応

町長 山崎 英樹

政府で、「子育て支援」「就学支援」等の検討が進められている。提案については、国の施策の実施状況も見極めつつ、今後の検討課題とする。



楽しい給食「いただきます」

一般質問

12月定例会



景山 登美男 議員

Q 定住対策の推進は

平成28年度、本町に移住した人が過去最高の53人となった。今年2月の「田舎暮らしの本」では住みたい田舎ランキングで上位に入った。これらは、あくまで移住であり、定住対策が必要ではないか。そこで次の5点を問う。

①本町の近年のU・Iターン者、地域おこし協力隊員の定着率は。

②移住者が過去最高なのに、求人倍率が増え続けているのはなぜか。

③農業を目指す人が、農業だけで生活していくのは厳しい。複数の仕事を組み合わせる「多業」や「多職」をすすめる考えはないか。

④地元に残りたい若者が希望する仕事は充分ではない。また、新卒者の早期退職が多い気がする。例えば都会で研修し地元に戻る仕組みを考えられないか。

⑤本町に住み続けるための「しごと」場の確保を図り「残りたい人が残れる町」になるような対策を求める。



今年度も上位にランクイン

A 移住が定住につながる施策を推進

町長 山崎英樹

①U・Iターン者が73・6%、地域おこし協力隊員が35%。

②バブル期を上回る求人倍率で、人材不足が深刻な問題であり、人材確保支援センターや地域包括ケア推進局、および飯南町福祉施設協議会と一体となって取り組む。

③複数の仕事を組み合わせることは、両立が難しい。

就農者に対しては、町、島根県、J・Aで組織する「新規就農支援チーム」で永続的にサポートしていく。

④全分野で人材が不足している。まずは、飯南町に住むことに価値を持つ人材、町を担うという意識を持った人材を育てるといった視点が大切だ。

町内事業所への新規就職者を対象に社会人セミナーを行うなど、新社会人を応援している。都会で経験し、地元に戻る仕組みを検討したい。



一般質問

12月定例会



熊谷 兼樹 議員

Q バイオマス都市構想の推進を

畜産業の経営環境は、TPPやEPAの合意により競争の激化が予測され、経営を維持するためには規模の拡大が求められる。

当然、家畜から排泄される糞尿も増加し、その処理方法が課題となる。堆肥化だけでは需要に限界があることから、バイオガス化する方法も必要ではないか。

残る液状残渣を処理する装置や、液肥を散布する放牧地整備までを計画にまとめ、畜産振興からバイオマス産都市構想につながる形で「畜産クラ



増頭が進む畜産

スター事業補助金」の獲得を目指せば優位性がでる。

さらにバイオマス産都市構想の最終目標は、バイオマス発電による電力の地産地消、電気料金の地域内循環だと考える。

奥出雲町では、すでに水力発電所が稼働しており、収益の仕組みも確立できている。本町でも再生可能エネルギーの推進を望む。

A 申請なども支援

町長 山崎英樹

本町でも酪農など大型経営が行われており、一層の基盤強化が求められる。畜産経営者からは、増頭など基盤強化の声もあり、協議し支援する。

国は、畜産・酪農の収益力強化を支援する仕組みとして「畜産クラスター事業」を設けており有効だ。それ故に要望も多く予算不足と聞かすが、申請など町でも支援する。

バイオガスは、町・J・A・民間企業で研究会を立ち上げ、実証試験用ミニプラントでの試験を始めた。関係者で現地に足を運び勉強をしていく。

Q 国の考えは疑問

「多面的機能支払事業」のうち「資源向上支払交付金」が半額となるという説明を受けた。何故50%なのか。

「計画は作らせたが金はない」という国の姿勢は無責任であり、その事をきちんと国に伝えるべきだ。

A 引き続き要望活動を行う

町長 山崎英樹

本町では、多面的機能支払事業の継続が2組織、再認定が2組織ある。国の決定では、継続は100%、再認定は0%となっていたが、島根県での調整により、継続は要望額の93・3%、再認定は50%となった。

農水省、財務省への要望活動を行っており、今後も予算増額に向け、引き続き要望を行う。

反対討論 伊藤 好晴議員
〈指定管理〉

平成28年度の指定管理料は40施設で、1億4千7百万円に上り、このまま放置すれば、際限なく膨張していく懸念がある。施設によっては民間に移譲した方が良いと思えるものがある。精査し民間移譲を促進すべきだ。

〈下水道事業特別会計〉

頓原浄化センターからの汚泥運搬車両の積載は9トンであり、総重量は18トン位になるのではないかと。事業が始まる際に、井羅谷線は林道で、耐荷重の面から「路面を損傷する」と指摘した。「軽量のもので運搬する」との答弁だったが、現状と異なる。即刻対処すべきだ。

〈国民健康保険事業特別会計〉

高すぎる保険料の指摘をしてきたが、一向に解決されない。支払い能力に合わせた保険料を目



頓原浄化センター 汚泥搬出作業の様

指さなくてはならない。基金の取り崩し、一般会計からの法定外繰り入れを含め検討を求める。

賛成討論 景山 登美男議員

決算審査特別委員会の報告は、議決された予算が効率よく執行されたかを中心に審査されたもので、改善や検討を要する事項は審査意見として付記されている。そのうえで全ての会計は、おおむね適正に執行されたものである。

会津若松市議会

福島県会津若松市議会は、平成20年6月に議会基本条例・議員倫理条例を制定し、近年では日経グローバル（月刊誌）の議会改革ランキング2位となるなど、議会改革先進地として年間100団体を超える行政視察を受け入れている。

住民に信頼される議会を目指し、議員倫理の厳格化を図るため、19条からなる議員倫理条例を制定した。これにより議員活動を行なう際に遵守すべき



会津若松市のシンボル 鶴ヶ城

〈会津若松市議会〉

議会基本条例により、住民との意見交換会の実施。これを基にした政策討論会の開催、さらに政策提言につなげ、活発な議会活動を実践されている議会を視察した。

〈グリーン・サーマル(株)グリーン発電会津〉

会津若松市内で稼働している木質バイオマス発電所を視察した。発電規模は5000kWと小ぶりながら、燃料の集材や発電所の従業員などで77人の雇用を創出している。



歴史ある重厚なつくりの市議会議場

決算審査報告

決算審査特別委員会 委員長 内藤 眞一

審査の対象

- ・平成28年度飯南町一般会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成28年度飯南町国民健康保険事業外4件の特別会計歳入歳出決算書及び関係書類
- ・平成28年度飯南病院事業会計歳入歳出決算書及び関係書類

審査意見

財政健全化法に定める指標の数値は、早期健全化基準をいずれも下回っているが、今後も徹底した経費削減に努め、一層の財政健全化に努められたい。

未収金

一般会計の未収金は5215万円、前年度比210万円の減少、特別会計でも55万円減少だが、196万円の不能欠損処分によるもの。現年分の徴収に努め、未収金の減少に努められたい。

不用額

予算の早期執行に努めるとともに、変動時は速やかに補正すること。

指定管理

今後の選定には、民間のノウハウを活用し、サービス向上とコスト軽減への努力を求める。

事業の執行

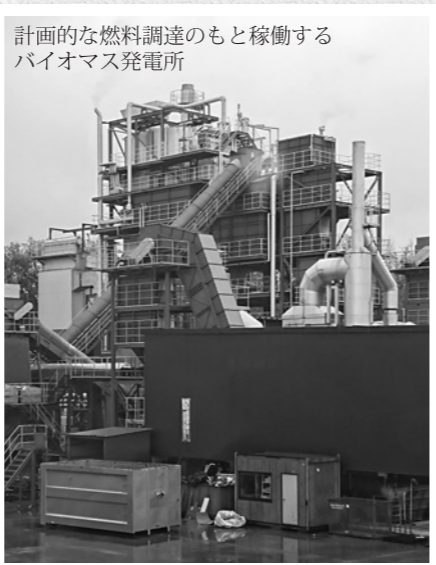
部署が跨る事業について、事業効果の認識にズレが見受けられる。充分な協議と連携を求める。

農業振興

農業者はJAによる営農指導の現状に不満を感じている。営農指導体制への働きかけに努められたい。

飯南病院

入院患者数、外来患者数とも前年度より減少したが、前年度に続き5600万円余の黒字決算である。院長をはじめ、病院スタッフの努力を評価したい。



計画的な燃料調達のもと稼働するバイオマス発電所

行動基準が定められ、住民から信頼される基盤となっている。議会基本条例は、住民との意見交換会、議員同士の自由討議、請願・陳情者に意見陳述の場を与えることの3条件を盛りこみ、開かれた議会・住民参加を実現している。特に、意見交換会は5月と11月に小学校区単位で実施し、参加住民はおおむね200人程度であるとのこと。このときの意見を議員間の自由討議により集約し、政策提言や一般質問につなげている。

飯南町議会においても、2年間にわたり議会基本条例施行に向け議論が交わされてきたが、今だに生みの苦しみの中にある。この研修を生かし、町民から信頼される公正で開かれた議会を目指し、条例制定に向け尽力したい。

グリーン・サーマル(株)グリーン発電会津

この発電所は、経営者の「バイオマス発電システム普及こそが林業の復興になる」との理念のもとに建設された。太陽光や風力のように、気候の変動により電力が変動しない安定した出力

の発電が可能で、ベース電源となりうる利用価値の高い電源となる。また、山林の未利用材はわれわれの住む地域でも産出するもので、これを利用することは山林の保全や循環を作り出すことが出来ると思われる。

この立地は、変電所から1kmも離れていないので容易に電力会社へ売電することが出来るため、送電コストを下げずにエネルギーの地産地消を実現している。

利益を上げることが目的とせず、雇用創出や環境保全を目的としているので、年間売上12億円でトントンという経営ではあるが、1メガワット（1メガワットは1000キロワット）が採算ラインといわれているバイオマス発電事業の中で、その約半分の発電規模でありながら地域に貢献している姿に感動した。

行政視察報告

平成29年11月15日から17日（3日間）

教育経済
常任委員会

委員長 内藤 眞一



3月に完成予定の上赤名リースハウス

H29町道松本頓原線道路改良
工事請負変更契約の締結

変更事由、変更額の積算などについては適当であると判断した。しかし、提案にいたるまで工事変更にかかる説明、報告、協議が無く、地方自治法の定める内容を逸脱しており、執行部に責任があるといわざるを得ない。

今後、このようなことが無いよう、執行部は緊張感を持って業務に当たるとともに、法令を遵守し、適切な事務事業遂行に務めるよう意見を付した。

飯南町園芸作物生産施設の設置
及び管理に関する条例の改正

上赤名地内にリースハウス8棟を設置するもの。経営に必須である基盤、給排水設備、電気設備が整備されていないのではないかと疑問に対し、暗渠排水、給水施設、電気設備は年度内に整備するとの回答であった。

平成29年度
飯南町一般会計補正予算

機構集積協力金交付事業 363万円

つがが営農組合の法人化に伴い、農地中間管理機構を介した農地集積に対する地域集積協力金。

農業経営力向上支援事業 40万円

つがが営農組合の法人化に伴う定額補助金。

小学校教育振興共通臨時管理費 34万円

赤名小学校に来年度開設される特別支援学級(難聴)のための備品購入費。

教育振興共通臨時管理費 31万円の減額

タブレット教育支援ソフトの調達費で56万円減額。赤来中学校に難聴学級を新設するための備品購入費が25万円。

採決の結果

[12月定例会]

件名	結果	伊藤好晴	瀧尻行雄	門真一郎	熊谷兼樹	内藤眞一	早樋徹雄	高橋英次	景山登美男	安部丘
平成28年度飯南町各会計歳入歳出決算認定	認定	●	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の改正	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町一般会計補正予算(第7号)	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
その他13議案	全会一致で可決									

第6回臨時会(10月20日開催)

専決処分の承認を求めることについて(平成29年度飯南町一般会計補正予算(第4号))	承認	●	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町一般会計補正予算(第5号)	全会一致で可決									

第7回臨時会(11月9日開催)

H29(交付金)新衣掛団地建設工事請負契約の締結	全会一致で可決									
財産(飯南町堆肥センター堆肥散布機運搬車輛)の取得	全会一致で可決									

○賛成 ●反対

総務厚生
常任委員会

委員長 瀧尻 行雄



導入予定の三江線代替バス

平成29年度
飯南町一般会計予算(歳入)

三江線廃止代替バス購入補助金 2207万円

三江線廃止により、大和から赤名経由で三次までの代替路線が決まり、そのためのバス購入補助金。全額JRからの補助である。小型ノンステップバス32人乗り1台を購入する。赤名・三次間は備北交通を利用する。

生活困窮者就労準備支援事業等補助金 10万円

ジェネリック医薬品への理解が進み、使用比率が高くなった事により補助率が上がったもの。補助金加算措置(補助率3/4が7/8に増)

飯南町定住促進賃貸住宅の設置
及び管理に関する条例の改正

上赤名定住団地(赤穴八幡宮前)に、新たに3棟が完成したことによる条例の改正。全9区画中7区画がうまり、残り2区画。さらなる事業推進を求め意見を付した。

平成29年度
飯南町一般会計予算(歳出)

頓原庁舎臨時管理費 650万円

旧頓原庁舎外壁塗装の一部(52.4㎡)からアスベストが検出された。それを処分する費用。

子ども・子育て対策事業 85万円

第3子出産祝い金の対象者増加による補助金の増額。年当初6人を予算化していたが11人に増加する見込み。

〈審査意見〉

定住促進賃貸住宅は全21棟になり、その内20世帯78人(子ども39人)の入居があり、事業成果が顕著に現れている。町内各地域でも同様な住宅建設の要望がある。一層の努力を求める。

議会活動報告 [10月~12月]

- 10 3日 雲南広域連合研修会
4日 議会広報編集委員会:編集作業
5日 決算審査特別委員会
6日 雲南地域議会議長会スポーツ交流会
10日 島根県議会議員正副議長、正副委員長研修会
12日 決算審査特別委員会
13日 島根県教育長要望
17日 決算審査特別委員会
19日 決算審査特別委員会
20日 議会全員協議会・臨時議会
24日 教育経済常任委員会(閉会中の調査)
26日 決算審査特別委員会
27日 雲南市・飯南町事務組合議会
31日 決算審査特別委員会

- 11 3日 飯南町功労者表彰
6日 決算審査特別委員会
9日 臨時議会
10日 島根県中央子牛共進会(松江市宍道町)
13日 島根県全議員研修会
15~17日 福島県会津若松市ほか視察研修
20~22日 地方自治法70周年記念式典、全国町村議長大会(東京)
22日 決算審査特別委員会
27~28日 総務厚生常任委員会(閉会中の調査)
29日 決算審査特別委員会

- 12 1日 議会運営委員会:12月定例会の提出議案、日程外の協議
1日 雲南広域連合議会運営委員会
5日 12月定例議会:本会議、町長提出議案の説明、質疑、委員会付託
8日 :本会議、一般質問
11日 :委員会審査
12日 :委員会審査
13日 :委員会審査
14日 :予算特別委員会審査、議会全員協議会
15日 12月定例議会:本会議、委員長報告(質疑)、討論、採決
19日 議会広報編集委員会:編集作業
26日 雲南広域連合議会・雲南市・飯南町事務組合議会
27日 議会広報編集委員会:編集作業

町の蕎麦と空気を三次に届けたい

一福広島三次店

店長 松平 武志さん

ほぼ毎日、下米島から「まるシエのある三次市三次町まで通っている、一福広島三次店長の松平武志さん、麻美さんご夫婦。一昨年四月に暖簾分けを受けて、この春で3年目を迎えますが、こだわりの蕎麦づくりが評判を呼び、お昼時は席待ち状態でした。

年越しそばで多忙だった松平さんに初夢を語ってもらいました。

お仕事は楽しいですか

もちろん楽しいです。こだわりの持つて仕事をしているので、それを評価していただいたり、特に新規のお客様のご来店が増えていますのが嬉しいです。

明日を拓く



店長の松平武志さん

三次市での展開で感じたことは

以前は広島市内で営業していたので、三次は地域規模が小さく、思っていたイメージと違っていたので当初は苦戦していました。しかし、徐々にお客様が増えてきているので、ありがたいと思いつつ同時に、お客様のために頑張らなくてはと思っています。

飯南町の魅力は

発信できていますか

飯南町は、広島県から島根県への玄関です。私なりに「蕎麦」を通して町の魅力を届けてみたいと思っており、家の近くの旬の朝採れ野菜を天ぷらにして蕎麦に添えています。また、「たけの

こ」や「むかご」ご飯なども好評で、お客様から「これは何の野菜ですか？」と問われることもあり、少しでも町のPRになればと思います。

今年の抱負はなんですか

開店したときと変わらぬ気持ちで、少しでもお客様に喜んでいただけるよう精進を重ねていきます。三次店をもっと知ってもらい、接客面なども大切にしていこう努めます。

飯南町の方も、お気軽にお越しください。やはり、地元の方々が来られるとうれしいです。



心を込めてそばを打つ姿

今月の表紙写真



自信に満ちた松平店長の姿は、三次で「美味しい蕎麦屋」との評判もある一福広島三次店の「今」を映しています。手際よい蕎麦打ちや蕎麦切り作業は一気に進められ、軽やかなリズム感をもって流れていて、「すべてはお客様のために」という理念を持つ松平店長の姿勢は、「蕎麦だけでなく、接客から始まる」ときっぱり。こだわりの蕎麦づくり、店づくりはお客様の高い評価につながっているようです。

編集後記

十二月定例議会が終了し、ほつと一息する間もなく、こんどは天候が急変、冬の気圧配置「西高東低」となり、日本海側はのきなみ冬將軍到来であります。子どもたちは雪の中、外に出て大はしゃぎですが、年を重ねた者にとつては、まさに骨まで寒さがこたえる今日のごころであります。

町民の皆様へ「議会報飯南」を身近なものに感じてもらう、インパクトがあり次へつなげるような感じにしてお届けしようと、広報委員全員一丸となつて努力致しています。

どこの地域でも少子高齢化が進み、将来にきびしいものを感じつつも、本町では、定住促進に全力をあげ、大きな成果をあげています。さらに良い地域ができるように、みなさんと一緒にがんばりたいです。本年も良い年でありますように。

議会広報編集委員会 瀧尻 行雄